

スマート畜産の現状と展望

食に関わる者にとって安全が第一であることは言を俟ちませんが、昨年からはじめた令和の米騒動は、食糧の安定供給もきわめて重要であることを改めて浮き彫りにしました。このような中にあって畜産業を取り巻く環境は厳しさを増しており、各種家畜伝染病の発生、飼料価格の高騰、労働力と獣医師の不足、働き方改革への対応など、日本の畜産業の持続可能性と畜産物の安定供給を脅かす課題が山積しています。これらの課題を解決するための方策として、機械化や自動化の推進、情報通信技術や人工知能の活用など、いわゆるスマート畜産の導入が進みつつあります。

本研修会では、スマート畜産推進に関する国の取組、海外の先進的な導入事例、生体センサーの活用や遠隔診療の現状と今後などについて、行政の担当官あるいは専門の学識経験者に解説していただき、日本の畜産業について理解を深める機会にしたいと考えています。なお今回は、岩手大学、東北大学、東京大学、大阪府立大学、神戸大学、および宮崎大学が持ち回りで開催している 6 大学共同フォーラムを兼ねていますので、一般の方の参加も歓迎です。

多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時：令和 7 年 9 月 29 日（月）13：00～17：15（受付 12:30-12:55）

会 場：岩手大学農学部 5 号館 2 階 ぼらんホール（Web 併用）

受 講 料：無料

募 集 人 数：100 名程度（会場）

対 象 者：畜産関係者、食品営業関係者、一般市民

プログラム：

時間（目安）	講義および講師名
13:00	開会挨拶
13:05	日本の畜産業の課題及びその解決に向けたスマート畜産推進の取組 農林水産省畜産局畜産振興課 課長補佐（総括） 伴 光 氏
13:55	農村と都市との豊かな結びつきを育む「いわて畜産テリトリーオ」 岩手大学教授 澤井 健 氏
14:15	乳牛の飼養管理をめぐる最新技術と岩手・フランスの事例 Bioret Agri Country Manager Japan 北海道大学大学院農学研究院研究員 安田 元 氏
15:00	休憩
15:10	生体センシング技術による群管理の効率化と高度化 岩手大学特任教授 岡田 啓司 氏
15:55	遠隔診療システムの検証と高度利用の検討 岩手大学特任教授 一條 俊浩 氏
16:40	6 大学フォーラム各大学の活動報告 （岩手大学、東北大学、東京大学、大阪公立大学、神戸大学、宮崎大学）
17:10	閉会挨拶

○申込方法：

所定の申込フォームまたはメールにて**9月22日（月）**までにお申し込みください。募集人数に達した時点で締切といたしますのでご了承ください。

＜申込フォーム＞

<https://forms.gle/2cYSWp2RefJTYVFh9>



＜メール＞

申込先アドレス：fams@iwate-u.ac.jp

件名を「**6大学共催フォーラム兼FAMS第22回全体研修会申込**」とし、以下の点をご連絡ください。

1. 参加者氏名（ふりがな）
2. 所属
3. 電話番号
4. メールアドレス

※申込に際して取得した個人情報は、研修会に関するご案内・ご連絡、参加登録、及び弊学からの情報提供のために利用します。

申込・連絡先：〒020-8550 盛岡市上田 3-18-8

岩手大学獣医学部附属動物医学食品安全教育研究センター事務局 担当：上野・岩間

TEL：019-621-6108 FAX：019-621-6107

E-mail：fams@iwate-u.ac.jp

電話受付時間：月～金（祝祭日，8月8日～17日を除く）午前9時～午後4時

主催：岩手大学獣医学部附属動物医学食品安全教育研究センター/

東北大学食と農免疫国際教育研究センター/

東京大学大学院農学生命科学研究科食の安全研究センター/

大阪公立大学食品安全科学研究センター/

神戸大学大学院農学研究科食の安全・安心科学センター/

宮崎大学産業動物防疫リサーチセンター

共催：岩手大学獣医学部附属産業動物臨床・疾病制御教育研究センター